



写真等無断転載禁止

ソーラーシェアリングと地域コミュニティづくり ～市民エネルギーちば@匝瑳市～

千葉市美浜区 松井 かよ子

2021年12月20日、市民ネットワークの議員および市民有志で、匝瑳市にある市民エネルギーちばのソーラーシェアリング畑を視察してきました。

この始まりは、里山や住宅のすぐ脇に、太陽光パネルが次々と設置され、地域の環境に悪影響を及ぼしていることについて、何か打開策はないかと考え、代表の東光弘さんに相談したことがきっかけです。

政府が目標とする2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、太陽光発電の導入はますます重要になってきますが、一



方で、自然の営みを破壊してまでおこなわれる大規模発電（メガソーラー）や居住環境を脅かすような太陽光パネル設置は、災害を防止する観点からも、絶対に阻止しなければなりません。

その点、今回の視察では、太陽光発電のあり方について、ソーラーシェアリングについて、さらには、広く地域コミュニティづくりについて、多くの示唆を得ました。



＜ソーラーシェアリングとは＞

太陽光発電パネルの下で農業をおこなう形態で

す。CO₂を「パネル」で削減し、「光合成」でマイナスにするほか、市民エネルギーちばでは「有機農業」（不耕起栽培）を導入することによって、トラクターの燃費を削減するとともに、炭素を土に固定して微生物の動きを活発にし、土壌本来の力を活かしながら植物の生育を促すなどして、さらなるCO₂の削減やマイナスを達成しています。

通常、太陽光パネルが設置してある場所は、地面がコンクリートや再生土で固めてあったり、除草剤をまいて草が生えてこないようにしたりするなど、土がまったく感じられない状況になっていますが、案内された「匝瑳メガソーラーシェアリング 第1発電所」には、ふかふかの土の上に有機栽培の大豆が実っていました。



また、パネルも畳くらいの大きさのものではなく、3分の1サイズの細形パネルで、農作物にあたる光を均等にしていました。

このパネルですが、2014年に市民出資によるパネルオーナー制を導入し、誰でも参加できるようにしています。ソーラーシェアリングの発想は「太陽の恵みを分かち合う」ことですが、エネルギーも、農業も、自然環境も、人も分かち合いの中でつながる大きなシステムであることを実感しました。

＜地域コミュニティづくりに向けて＞

ソーラーシェアリングの取り組みは、耕作放棄地を解消するという地域課題にも立ち向かっています。農業を継続したくてもできない農家にとって、

太陽光による売電で安定収入を得ることができれば、地域の再生につながります。

また、災害時には地域住民が電源を確保する仕組みも導入しています。さらに、売電収入を基金とし

て2018年には「豊和村つくり協議会」が設立され、人が集い、活気あるコミュニティづくりに向けての活動が始まっています。詳細は市民エネルギーちば <https://www.energy-chiba.com/>をご覧ください。

収穫祭を実施しました

昨年は covid-19 の感染拡大により実施できませんでしたが、今年は収穫祭を12月11日（土）に実施しました。全員マスク着用でアルコール消毒、食器は自宅から持参してもらうなど感染防止につとめました。残念ながら毎年恒例の「もちつき」はできませんでしたが、谷津田ウルトラクイズ、弓矢まと当て、正月飾り作り実演講座、谷津田ボートレースなど、風もない青空の下、楽しいひとときを過ごしました。

参加者の岩上さんと南川さんから感想をいただきましたので、写真とともに掲載いたします。

楽しかった収穫祭

千葉市中央区 小学4年 岩上 颯汰

ウルトラクイズは、はじめた時は自信がありませんでした。もし、タッチできるとしても15問目くらいだと思っていました。なかなか難しい問題もあったけれど、8問目でタッチできて優勝できたのでうれしかったです。

ボートレースは、事前に観察会の時に、南川さんにむずかしい所を教えてもらっていたから、3位以内に入りたいと思っていました。レースがはじめて最初は10位くらいでした。少ししてとちゅうのトンネルでボートを見失いそうになったけれど、すぐに見つけてふっきできて5位くらいになりました。むずかしい所で逆転して、最後は大差で1位までのぼりつめました。ウルトラクイズとどっちもチャンピオンになったので、とてもうれしかったです。賞品は、渋谷さんの竹とんぼと、南川さんの竹のコップでした。来年は、自分もウルトラクイズをちょっとだけ出してみたいと思いました。



谷津田ウルトラクイズ

久しぶりの谷津田運動会

市原市 南川 忠男

風のない穏やかな日に収穫祭ができました。味噌汁・焼き芋や弓矢との開始時間の調整で谷津田ウルトラクイズは収穫祭開始早々の10時に始めました。

正解すれば一歩進み、早く出題者の南川にタッチすれば1位、2位が決まる谷津田の生き物やちば環境情報センターに関わることをクイズにしました。10歳は5歩で優勝できる距離にスタートラインを設置しました。最初の3問は三択で易しい問題にして、4問目以降は早押しで、6歳未満は3歩進め、低学年は2歩、高学年は1歩とハンディを設けました。但し早押しは間違えると1歩下がる罰があり、慎重に答える女の子もいればどんどん手を挙げる男の子もいました。

9問用意しましたが、優勝（岩上そうた君）は8問で決まりましたが、4位が決まるまで更に5問必要になり、その場で考えました。2022年谷津田カレンダーの7月の写真を見せて「この蝶の名前は？」にオオムラサキとすぐに答えた男の子がいたし、ヤゴの羽化も答えた。レベルの高いクイズとなり、小学校4年生が3名金銀銅に輝きました。昼食後の谷津田ボートレースは6歳から14歳の14人が参加しました。

年齢1歳で2mスタートラインを下げるハンディ設定なので、6歳児の後方8mにその後金銀を取る10歳は立ちました。いつもより大きいボートを水路に一斉に落とし、竹の棒でたたき150m先のゴールを目指すものです。魔の水の三叉路までは接戦だったが、ここで差がついた。銀銅が至近距離で争うので、速度が落ちるが、抜けだしたそうた君は銀にじゃまされずにマイペースでたたき続けた。3日前の一日中の大雨でこの水路の水量が多かったのも、4分50秒の世界新記録の誕生に寄与しました。また楽しい谷津田運動会をやろうと思いました。



正月飾り作り実演講座

新浜の話47 ～かなへび島とうらみ島～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

1987年8月30日、100m四方ほどの新しい池の水入れにこぎつけた行徳鳥獣保護区。それから1ヶ月、水面にはアシがそよぎ、水中にはトンボのヤゴが育ち、おだやかな湿地の眺めがひろがりました。水源のどぶ川は臭気を放ち、水は時には墨汁のようにまっ黒。しかし、浅い池に流し込まれ、日光と空気にさらされて移動する間に水はきれいに澄んできました。二面の池で、汚水がまず入る「上池」は濁って浮きカスも漂いましたが、せまい水路でつながった「下池」では「作業のあとで手を洗うのに何の抵抗も感じなかった。

しかし、顔を洗った時はなんとなくぬるっとするというか、べたべたした感じが残った。」塩分か、微生物の影響か。簡易水質調査の結果でも、水質浄化は明らかでした。

9月から10月にかけて、新しい池にはシギ・チドリ類、サギ類、カモ類などが次々に入るようになりました。完成から1ヶ月の間に記録された鳥は31種、2カ月目の終わりには46種。鼻高々です。ところが、12月に入るとカモがさっぱり入らなくなりました。理由の一つは、雨が続けて水がきれいになりすぎ、餌となる藻類などがなくなったためではないかと思われます。12～1月にかけて湊排水機場遊水地（通称どぶ池）の中で、汚泥の浚渫や砂入れなどの浄化のための工事が行われ、丸浜川は連日のように徹底排水されて、水位が常に低い状態になりました。丸浜川の状態はすばらしくよくなったのですが、揚水する水にも事欠くような状況。1月から2月にかけて、生きものの逃げ込み用に準備した深みを除き、とうとう新池のかなりの部分が干上がってしまいました。

この機会を利用しない手はありません。2月10日と11日に、干上がった池で島づくりをしました。10日は私と高校生の川上君。深みを掘るためにかたわらに積んだ泥の高みを利用したので、3時間ほどぼちぼち働いて、けっこう目立つサイズの細長い島ができました。短い四つ足もちゃんとして、「かなへび島」と命名。「うまくすれば、頭のところと端と、セイタカシギが巣を作ってくれるかも。

翌日。勇んで出かけた中学生たちが、作業服に泥はねをいっぱいつけて、夕方戻ってきました。なぜかむちゃくちゃに機嫌の悪いこと。「良さんひどいよ。」「もう俺、絶対に手伝わない」なんでも、陣頭指揮をしている良さんこと、友の会の会長さんが、「あとでくるよ」と言い残して先に帰ってしまったとのこと。その理由。発売された「ドラゴンクエストⅢ」をやりたいたばかりに。会長さんの仕事には、こんなこともある、あんなこともある、先頭に立って作業をする以上に大事なこともいっぱいあるのよ、等々、彼らをなだめ、説きつけ、なぐさめるのにたっぷり2時間かかりました。この際、これは友の会の伝説として残そうということになり、彼らが作った島を「うらみ島」と名付けました。地の利が悪くて小さかったけれど、思いのたっぷり詰まった島。



つやまおきこウェブサイト
21世紀絵コジ〜 <http://www.21eco.net>

私はこのうらみ島の伝説が好きです。何かの活動というものには、どこかにちゃんぽらんで、遊びがあって、抜けているところが必要と思っています。張り詰めた活動は続きません。「包容力があって貪欲な、アメーバみたいな会になるといいのだけれど。でも、アメーバは顕微鏡でしか見えない微生物だった。気を大きくもって、いっそ雲か水みたいな会というのはどうかしら。雲散霧消、ははは……。」

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2022年 2月号（第294号）の発送を 2月7日（月）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所〒 _____

ふりがな _____ 氏名 _____ 男 女 Tel _____

編集後記：あけましておめでとうございます。年が明けて、世界ではオミクロン株が猛威を振るっています。日本でも1月6日に感染者が4,475人を数え、第6波突入とみなされる状況です。ちば環境情報センターの活動も、感染対策を十分に、米づくりや自然観察会などを通して環境問題について考え、提案していきたいと思います。今年もよろしくお願いたします。 mud-skipper

○田作り(畦の整備) 12月18日(土)

今期しっかりと役目を果たしてくれた畦や水路ですが、降雨、作業の踏み跡、モグラやザリガニの活動のため機能が失われるため日頃の整備が重要です。また11月よりイノシシの被害も拡大して来ています。

18日は小学校田んぼ他に水を送る重要な水路を整備するとともに、水漏れの目立った数か所の畦の修復を行いました。また、来期の以降の栄養として活用されるように、脱穀で残された藁や籾殻を田んぼにもどす作業も行いました。細かな補修が必要な個所は数々ある上、大きな修復の必要な個所も数か所あり、来期までに計画的に手をいれていかなければなりません。

参加者2名(大2人名)

【谷津田・季節のたより】

下大和田町

報告：田村光範

12月 イノシシに畔が壊される被害が多くなってきた。竹で作った柵をジャンプして飛び越えるのを目撃した。もう少し高くする必要がある。

12月下旬 田んぼの水が凍り始める。谷津田に本格的な冬が来たと感じる。

小山町

報告：たんぼぼ

12月14日 田んぼ初氷、ヒヨドリの寒そうな声が響く。

12月27日 22日から連日凍結していた田んぼは一部人が乗れるほどの厚み発達。地上を索餌するアカハラを度々観察。

【イベントのお知らせ】

谷津田ってどんなところ？と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなど思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、初めての方も好きなときにご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろんお一人でも気軽にいらしてください。新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止や日程変更がありますので下記連絡先まで問い合わせてください。

主催：NPO法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL.090-7941-7655, E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com

ご注意：・車で来られる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などに置かないでください。

・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくなどご協力をお願いします。

・小学生以下のお子さんは保護者同伴でご参加ください。

・けがや事故のないよう十分注意は払いますが、基本的には自己責任をお願いします。

・三密を避けるよう意識して行動してください。

<下大和田谷津田>

・第273回 YPP「どんど焼きと昔遊び」

正月飾りや、かかしをお炊き上げします。ベーゴマやけん玉などの昔あそびもします。

日時：2022年 1月15日(土) 9時45分～14時 雨天中止

場所：下大和田 わいわい広場

持ち物：マスク着用、弁当、お椀とお箸、飲み物、帽子、軍手、敷物、正月飾りなどどんど焼きで燃やしたいもの

参加費：200円(小学生以上)

・森と水辺の手入れ

日時：2022年 1月16日(日) 9時45分～12時 雨天中止

持ち物：マスク着用、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物

参加費：無料

・第265回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日時：2022年 2月 6日(日) 9時45分～12時 雨天決行

内容：冬越しの鳥との出会いや木々の冬芽・葉痕を求めながら谷津を巡ります。

持ち物：マスク着用、筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴(通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋、

午後も活動する方は弁当、敷物

参加費：観察会のみ100円(小学生以上)

<小山町谷津田>

・第200回 小山町 YPP「畦の整備2」

来年度の米作りを前に冬の間、十分時間をかけてしっかりと田作りを行います。

日時：2022年 1月15日(土) 10時00分～ ☆小雨決行

場所：りんどう広場

※ 一般の方の参加も若干名受付ます。

参加ご希望の方は、tomizo_i@nifty.com 赤シャツ親父 までご連絡下さい。

